

令和元年度第3回小牧市男女共同参画審議会会議録

1 日 時：令和2年2月7日（金）午後2時00分～

2 場 所：まなび創造館多目的室

3 [出席者]

委 員：代田義勝、松田照美、武藤敦子、矢野秀美、伊藤幸子、前田真理子
近藤正司、伊熊啓人、廣瀬昌美

事務局：中川教育長、伊藤教育部長、松永教育部次長（社会教育担当）
恒川まなび創造館長、山下まなび創造館事業係長
堀まなび創造館事業係主任

[欠席者]

籠橋幸子

[傍聴者]

なし

4 議 題

- (1) 次年度に向けた第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取組内容の見直しについて
- (2) 令和元年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
- (3) 令和2年度男女共同参画講座開催事業について

1 開会

[恒川館長]

今日は、大変お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから令和元年度第3回小牧市男女共同参画審議会を開催いたします。

本会議につきまして、欠席の方が1名、籠橋委員でございます。

本日の会議につきましては公開としてありますので、議事録は情報公開コーナー等で公開いたしますのでよろしくお願いいたします。

会に先立ちまして、教育長から御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

[中川教育長]

改めまして、皆さん、こんにちは。

委員の皆様方におかれましては、御多用の中、第3回の本審議会に御出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

また、日ごろから男女共同参画推進のために御指導、御協力をいただいていることを重ねてお礼を申し上げます。

さて、本日の会議でございますが、次第でございますように、議題1として、次年度に向けた第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取り組み内容の見直しについて、2といたしまして、令和元年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、3点目といたしまして、令和2年度男女共同参画講座開催事業について御審議をいただくことになっております。

限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げ、また冒頭ではございますが、本年度最後の審議会ということになりますので、1年間のお力添えにお礼を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

この後もよろしくお願いいたします。

[恒川館長]

教育長、ありがとうございました。

続きまして、代田会長より御挨拶をいただきたいと思います。

[代田会長]

改めまして、こんにちは。

今日は、お忙しい中、また非常にお寒い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ございます。

昨年の暮れに世界経済フォーラムからジェンダーギャップ指数のランキングが発表されました。

2019年は、上位は、アイスランド、ノルウェー、フィンランド、スウェーデンですかね。そういった北欧の国々が占めていたのですが、日本はどうかというと100位を超えていて、121位でした。問題は、ずっと下がってきているということです。2015年が101位で、2016、2017、2018と110位台でした。今回、過去最低の121位になったのですが、下がってきているということは、つまり世界から取り残されていっているということです。101なら101で維持していれば、順位は悪いですけど、それなりに頑張っているということなのですが。実はこの部分を結構意識しなくてはいけないのではないかと考えております。これは国や県、それから市町もそうですが、やはり前年度と比較は当然しますよね。市町でしたら他の市町と比較もします。やはり同じ日本の中で見ていると、実は世界から取り残されているのに、日本の中ではうまくいっているのではないかと、という目しか持てないのです。だから、市町においても、前年と比べて、あるいは他の市町と比べてという視点は大事ですが、世界がどうなっているかという部分もしっかり見て確認していくことが大事なのではないかと考えております。

小牧も、それでこそ小牧らしさが出せると思います。子育てに優しい小牧、これは現在もやっています。これにあわせて、女性が暮らしやすい、働きやすい小牧にしたら、もっと小牧に住んでくれる人たちが増えていくのではないかと考えております。

今日は、議題が3つございます。委員の皆様、どうぞ意見の方をよろしくお願いいたします。

[恒川館長]

会長、ありがとうございました。

それでは、議題に移らせていただきます。

男女共同参画審議会規則第2条の規定により、代田会長に取り回しをお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

3 議事

- (1) 次年度に向けた第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取組内容の見直しについて

〔代田会長〕

それでは、議題(1)次年度に向けた第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取り組み内容の見直しについてです。事務局の方から御説明をよろしくお願いいたします。

〔恒川館長〕

議題(1)について説明させていただきます。

【資料1】、A4縦長の資料でございます。ハーモニーⅢ重点目標管理シートをご覧ください。

こちらの重点目標に対し、各課の年度ごとの取り組み内容をまとめたもので、令和2年度以降の取り組み内容につきまして各担当課にて見直し等を行い、それをまとめたものでございます。

内容につきましては、内容について修正等があった場合は赤字で記載させていただいております。

ページとしては21ページございますので、順に説明の方をさせていただきます。

今回、目標管理シート対象課21課中、修正等があった課は1ページ目の協働推進課、8ページ目の幼児教育・保育課、20ページ目のまなび創造館の3課でございます。

まず1ページ目の協働推進課につきましては、令和2年度と3年度の内容を入れかえるという形に変更しております。理由といたしまして、令和元年度に実施した地区会長会での意見聴取をもとに、令和2年度自治会活動マニュアルを改訂、その後、令和3年度に実際の自治会における役員等の登用状況を確認するという取り組み内容に担当課で見直しがされたからです。

次に、8ページになります。幼児教育・保育課につきましては、これまで未定となっていました令和2年度の部分について、取り組み内容が新規に追加されております。

次に、10ページ、まなび創造館についてです。まず前段でございますが、年間2回発行しております、男女共同参画情報誌「かすたねっと」におきまして、子育て世代の意見を取り入れて幅広く広報啓発を行っていく、という内容になっております。

修正前は、意見を取り入れる対象を学生などの若年層としておりましたが、意識調査において、男女共同参画という言葉の意味を知っている市民を調査した結果、その年齢割合を見ると、若年層ではなく30代から40代が非常に低いため、意見を取り入れる対象を30代から40代に変更し、かつ、この広報誌「かすたねっと」を活用することにより、多くの方に男女共同参画について知っていただくという狙いです。

後段につきましては、普及員設置区数の増加に向けた取り組みでございまして、モ

デル区の設置、また普及員の未設置区に出向くなどして積極的な働きかけをしていくという内容を追記しております。

以上、目標管理シートの説明となります。委員の皆様から質問・御意見等をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、他課の内容につきましてはこの場でお答えできない部分もございますので、またその際は一旦持ち帰りさせていただく場合もございますので、御了承ください。

[代田会長]

ありがとうございます。

事務局から、今回修正したところについて御説明いただきましたが、全体的に皆さんから御意見をお伺いしたいと思います。

ページが多いので、21ページを3分割します。7/21のところまでについて、何か御意見ある方は御発言ください。

[近藤委員]

まず1ページ目の協働推進課です。数値目標のところは、「役員自体を確保することが難しい状況であった」、現状からするとこれは当然のことです。この文言でいきますと、現状を調べられたのかということも分かりません。現状確認すればできるので、数値は出てくるのではないかと思います、どうでしょうか。数値目標という部分はとても重要です。もう12年間男女共同参画普及員をやってきましたが、小牧市の普及員配置のスタートが平成19年度、13区、24名から始まり、徐々に区の数も増え、それに伴い配置される数、人数も増えていきましたが、最近では下がってきています。

毎回1回目の普及員研修会はその人数が参加しますが、それでも50%ぐらいしか参加しない。2回以降になるともう16人とか10、30%以下。代田先生も29年度のとときに3回ほど講演へ参加いただいて状況は把握されているかと思いますが、本当にぱらぱらとしか参加していない。50人いて当たり前なところを、17人とか16人、そんな状況が続いていたわけです。いかに目標について頑張ってみえるかというところがなかなか感じられないので毎回お聞きしています。その中で1ページ目の数値目標のところ、なぜ数値がお聞きできなかったのかという部分をまず教えていただきたいと思います。

数値がなかったら目標ではないです。ただ数が増えればいだけでは自分としては目標にならないと思います。

〔代田会長〕

いかがですか。

〔恒川館長〕

委員が言われるとおり、数字での目標を持って取り組んでいくということがとても大事なことだと私の方も認識しております。協働推進課におきましては、この重点目標において数値目標にすることが非常に難しい状況にあるとの回答ですが、この内容につきましては一度持ち帰らせていただき、数値を追えないかどうか協働推進課の方に確認させていただきたいと思います。

協働推進課も一定の目標が必要だということは重々わかっている部分がございますが、それを捉えることが難しいとしている以上、この場での回答はできないかと思えます。

〔近藤委員〕

自治会役員における平均女性登用率の把握になぜこんなに年数がかかるのか。1回で済むようなことではないのかなと自分では思います。

〔恒川館長〕

自治区というのは非常に難しいところがございます。毎年変わるところ、変わらないところ、いろいろございます。その中で把握するということが難しいというふうに判断をされているとは思いますが、一度持ち帰らせていただきたいと思います。

〔近藤委員〕

ありがとうございました。

〔代田会長〕

恐らく数字は各区に調査をかければすぐ出ると思います。

〔近藤委員〕

うちでも出そうと思えばすぐに出せます。区長さんは女性ではありませんが、我々は60%ぐらいです。

〔代田会長〕

では、この数値が出せるかどうかは一度問い合わせていただくということで、近藤委員がおっしゃるように、やはり数値目標というのは大事だとは思いますが、何らかの数値を立てるように、審議会としてお願いしたいです。

[近藤委員]

それともう一点よろしいですか。2ページの危機管理課と、3ページの消防総務課ですけれども、女性の参加率50%というふうに、ただ単に50%と数字を上げているが、何の意味で50%なのか理解できない。ある程度検証して女性が何%になるかという数字を出すべきではないのかなと思いますが、この点について伊熊さんにお聞きしたいと思います。

[伊熊委員]

この50%というのはあくまで目標であり、半分半分という意味での50%だと思います。

ただ、防災リーダー会として、特に今避難所の運営などに対して、女性の立場でどうしていけばいいかということが大きな課題になっています。女性が活躍するために、このような形で各市町がやっていますとか、こんないいところがありますよという形を皆さんにPRしていかなければいけないです。

今、防災訓練の方に皆さん来ていますけれども、本当に災害が来たときに防災訓練が役に立つかという観点で見たときに、まだまだ役に立たない状況だと思います。なぜかというと、自治会の中の一部の組織として自主防災会がありますが、区長さんは長年やっておられる方はおりますけれども、1年でやめられていってしまいます。役員を1年やれば次に託せるという意識だとすると、こういった自主防災活動はなっていないと思います。

自主防災活動のマニュアルを大幅に改訂ということがありますが、改訂されるのかお聞きしたいと思います。継続的に防災訓練などを行っていかなければならないにもかかわらず、1年でまた一からやり直し、1年でまた同じことをやっているというのが多いです。最近では地域協議会ができ始め、みんなで防災訓練をやるように少しずつつながってはきましたが、本当に災害が起こったときに自分の命は自分で守れるか、共助ができるかというところまではまだまだ行っていない。形は整ったけれども、実際の活動としてどのように展開していったらいいかがまだまだ不十分だと思います。

先ほどの50%という数字について、どういう形になったら理想かということが各市町だとか地域の状況によって変わると思います。例えば子どもさんがたくさんいる区

があったらどういう対策が必要か、また老人の多いところはどうするか、一律に対策は見つからないので、やはりそれぞれの地域に合った対策を進めていく、考えていくということが必要だと思います。50%を一つの目標として、半々で一緒にやろうという感じでスタートされた方がよいと思います。中身に突っ込んでいくという形はまだまだこれからですし、そうでないと、さきほどのお話のように数値だけを見てしまいます。数字を出したはいいいけれども、対策ができる数字でなければ私は意味がないと思います。

[近藤委員]

うちの区も、高齢化で人も集まらないということもあって、自分の班だけでもやろうと思いましたが、伊熊さんみたいにリーダーシップはとれないですし、意識がすごく低いものですから、なかなか乗ってくれる人もいなくて、難しいなと思います。

[代田会長]

地域の事情によって、やはり目標値の設定は難しいと。ただ、全体として出す場合は恐らくこういう表現にならざるを得ないということですね。

[伊熊委員]

やはり地域特性というのは絶対ありますからね。

[代田会長]

ここはおそらく変えようがないですね。ただ、数字だけを上げるということではなく、やはり男女共同参画という方向性を考えつつ、中身の充実化を図っていくということが大事だと思います。それでは、そのほかの方でいかがでしょうか。7/21のところまで。

[近藤委員]

すごく大事なところですが、毎年の計画案、取組内容、経過目標が「〃」しているだけで、実際にどうだったからどうするという内容が全く書かれていません。目標を立てられた割に、この5年間、4年間は何をしてきたのだろうと。全体的にこの「〃」をやめてほしいと思います。

[代田会長]

例えば商工振興課はずうっと「〃」としてありますね。

[近藤委員]

最初に29年度で掲げられていることが30年度ではどうだったのか、検証も何もされていないというように見えますが、意味があるのでしょうか。

[恒川館長]

6 ページの部分に関しましては、目標値は達成できたが、取り組み内容については継続実施という意味で「〃」としていると伺っています。

[廣瀬委員]

今、その商工振興課の「〃」をやめてほしいという御意見は私も同感で、その年度、その年度で同じ内容であったとしても、文章での表記を求めたいと思います。

グレー部分の令和2年度というところを特に注目したいのにそこに「〃」があると、前に3年間という時間があったところを「〃」で報告というか、目標達成されたから「〃」なんだということは想像できますが、であれば目標達成されたから「〃」にしていますと一文あってもいいかなと思います。

[恒川館長]

「継続実施」といった表記ですとか。

[廣瀬委員]

はい。「〃」は目標が達成されたからである、と全ての課がそうなのかといたら、もしかしたら認識が違って見えるかもしれないですね。これですと、ここに表記する文言を、それほど重要視していらっしゃらないのかなと思われても仕方ないと思います。その認識をお聞かせいただきたいです。取組内容について御意見を、と求められますが、まず先に各担当課がここに表記する方が先かなと思います。

[代田会長]

確かに5年の計画になっていて、1年で達成できるような目標が果たして重点目標と言えるのかという根本的な部分もありますよね。この部分につきましては、達成したとしても、できるだけ丁寧に表記していただくようお願いできればと思います。

次に8/21ページから14/21ページで何かございますか。

[近藤委員]

10ページのまなび創造館ですが、数値目標の36区、自分がもしこの目標を掲げたとしたら自分に優しいなと思ってしまうような数字ですけれども、これについては何か根拠があって設定されたのでしょうか。

[山下係長]

当初は36区ということで掲げさせていただいておりましたが、経過を追うごとに目標設置区を上げて、令和2年度については40区に、令和3年度については50区を目指して取り組んでいきたいと考えております。

[近藤委員]

お願いします。

次に、基準値のところですが、これは25年度が31区あったということによろしいですか。実はいただいている資料や自分が控えた数字によって違うのです。25年度、31区ではなくて、おそらく28区、26年度が31区のはず。数字をたくさん書いていただいています。この数字は本当に正しい数字ではないのではないかと思います。

これは29年度のときの資料ですが、その時もお話ししたらその場ではお答えできないからということで次回ということになりましたが、次の会のときにまた同じ資料をもらったということがありました。こういうことがあると、一生懸命作っていただいた数字が本当に全部正しいのか疑わしい部分が出てきてしまいます。26年度であろうが25年度であろうが構いませんが、この部分について少し指摘させていただきました。

次に、令和2年度の実績内容ですが、ターゲットを30代、40代にされているということですね。我々の区でスポーツ委員や子ども会の役員をされている方は30代、40代の方で全員女性です。役員会においても子どもさんを連れて来られるような状況ということも、しっかりやっていただきたいなと思います。

もう一つ、下の方で普及員の必要性を理解していただいて設置を促すという部分について。区長さんたちも普及員さんのお願いに多分かなり困って見えると思いますが、これからの子どもさんやお孫さん、その先の時代のことを見たときに、普及員の大切さが伝わればやっていただけると思います。私も、この前区の会長をお願いするときに、熱を伝えてお願いしたら女性の方にやっていただけましたので、頑張っていたきたいです。

[山下係長]

ありがとうございました。

こちらに、まなび創造館で作成したパネルを張らせていただいております。（仮称）こども未来館に来館する30代、40代の子育て世代に対し、このような内容の啓発も兼ねてアンケートをとり、どのようなところを普及していけばよいかという御意見をいただこうと考えております。その内容を、今日お配りしている黄色と緑の冊子「かすたねっつ」に反映し、啓発をしていきたいと思っております。

普及員活動につきましても、モデル区になっていただくところ、またどのような活動がしやすいかを直接伺いたいと思います。それをもとに活動事例などを提示しながら普及員の必要性を理解していただき、設置区の増加に繋げていきたいと考えております。

[代田会長]

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

それでは、15ページ以降で何か御意見ございますか。

[意見なし]

(2) 令和元年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

[代田会長]

次の議題に参ります。「令和元年度教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」ですね。事務局の方から御説明よろしく願いいたします。

[恒川館長]

【資料2】になります。

小牧市教育振興基本計画の教育施策を総合かつ計画的に推進するために、具体的施策の検証を毎年行うものでございます。小牧市教育委員会基本方針の「施策21」におきまして、男女共同参画講座の実施が該当しておりますので、この部分について皆さんに御評価いただきたいと思っております。

使う資料は、A4縦長の【資料2】と右側の部分に書いてある点検評価シート（令

和元年度実績)と、【参考資料】と書かれたA3横長の女性センター講座実績と、開催に当たって作成したチラシとなります。なお、グレーで色塗りされている講座につきましては、開催日が本資料作成時以降で、未定となっているものです。では、資料2をもとに説明をさせていただきます。

「施策21」における令和元年度の達成状況といたしまして、ハーモニーⅢの基本計画をもとに合計31講座開催いたしました。今年度につきましては、企業啓発講座を初め、講座全体の回数を増やしております。

31講座の内訳としましては、1点目、男女共同参画の基本的な知識を学ぶ講座を初め、意識向上を図るための講座、子どものころから家事参加支援の講座、理系女子学生による子どもの実験・工作教室を19講座実施いたしました。

また、新たな分野といたしまして、中学生が性別にとらわれることなく、家庭・学校・地域において男女平等の意識を高め、自分の未来について個性と能力を発揮し、自分らしく生きることを考える機会とする、中学校出張講座を2講座開催しました。

2点目は、家庭生活への参加を促すために、料理や親子で取り組むといった内容の男性支援講座を5つ開催しました。

3点目、ひとり親家庭の自立支援や、出産、育児を期に離職した女性に対する再就職支援のための就労支援講座を3講座実施いたしました。

4点目、経営者、人事担当者、管理職、一般社員を対象に、メンタルヘルス及びアングーマネジメントに対する理解や知識を深めることで健全な職場の環境づくりを目指すための企業啓発の講座を2講座開催いたしました。

今年度の実績に基づいた課題ですが、各講座の申込率は高く、講座全体の回数も増やし、多くの受講者に男女共同参画について啓発を行うことができた一方、講座からサークル活動につなげることができなかったことでした。この後、議題(3)でお話しさせていただきますが、来年度につきましては、サークル活動につなげられるような講座を開催できるよう検討していきたいと思っております。

また、受講者の年齢層に隔たりがありますので、土・日や夜間の講座、親子限定から祖父母、孫への参加可能な講座、あと中学校出張講座、夏休み期間の子どもを対象といった、新たな受講者獲得のための講座を検討していきたいと思っております。

以上で説明を終わります。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

〔伊熊委員〕

課題の中で、サークル活動につなげることができなかつたと書いてありますが、サークル活動に何件ぐらいといった目標を掲げておられたのでしょうか。

〔山下係長〕

令和元年度につきましては、2講座サークル活動へつなげるようにと考えており、講座終了後も一部活動していただいたところもありましたが、結成までには至りませんでした。来年度は結成できるよう、講座の開講時から計画を組んで取り組みたいと思っております。

〔廣瀬委員〕

サークル活動につなげることができなかつたという課題に関連しますが、サークル活動につなげたその先のサークル活動を持続させていくことの意味、何のためのサークル活動なのかが、参加者に届いていなかったのではないかと。参加者がサークル活動へ気持ちが行くためには、その目的は大事だなと思うようなアプローチとかがなければ、難しいのではないかと思います。

例えば、講座が始まる前に本講座の目的として、サークル活動につなげたいといった形で説明をしていただくとかですね。サークル活動につなげる目的はやはり男女共同参画が大もとにあるので、男女共同参画を分かっていたいただいて、サークル活動につなげていきたい。まなび創造館の女性センターで、男女共同参画という名のもとに、いろんな講座が開催されているということをご一般市民の方に理解していただき、また、まなび創造館はそういう施設ですよ、この施設はこういうふうに使っていただきたく建てられていますよ、というメッセージが伝わってから初めて、サークル活動をやってもいいなという気持ちになるのではないのでしょうか。

〔山下係長〕

資料に、講座で使用したチラシをつけさせていただいております。この中で、廣瀬委員がおっしゃられたとおり、男女共同参画講座なのだということをごチラシに必ず掲げて講座を行ってまいりました。また、何の目的があつてこの講座を行っているのかということをご、毎回講座開講時に説明してから始めさせていただいております。ただ、令和元年度はサークル活動に至らなかつたことは事実であり、今いただいた御意見はごもっともだと思います。

防災の講座については伊熊さんに御助言いただきながら来年度の講座開講の準備を進めており、準備の段階から取り組んでいきたいと思っております。

[松田委員]

令和元年度に関して、サークルにつなげる講座を2講座程度というふうにお聞きしましたが、1つは防災講座でもう一つは何ですか。

[山下係長]

もう一つは、就労支援講座「今から始めよう、親が変われば子が変わる、親子の片づけインストラクターになるために」です。世代も若い方が多かったですし、できれば活力あるサークルにつなげたいと思ひまして、講座開講後、二、三度集まっていたいで活動をしていただくところまでは行きましたが、それ以上は進められませんでした。

[松田委員]

ありがとうございます。やはり事前にそういったように方向づけをして企画を立てていくということはとても大事なかなとは思っています。

[代田会長]

そのほか、いかがでしょうか。

[伊藤委員]

「父と子でチャレンジ」の「料理&お楽しみ講座」が小学校3年生までというのは、何か理由があるのでしょうか。

[山下係長]

若いお父さんに、お子さんが小学生高学年、中学生になられるよりも早い段階で育児に参加していただきたい、またお子さんと接する機会が少ないお父さんに料理と一緒に体験学習をしていただいてコミュニケーションをとっていただくきっかけにしたということ、お子さんがまだ大きくなる前の、年中から小学3年生としました。料理以外の部分の内容につきましては、名古屋工業大学教授の増田先生に来ていただいて行いましたが、植物や昆虫の観察が好評だったことや、先生方と御相談をさせていただいた結果、このような年齢層になりました。

〔伊藤委員〕

わかりました。ありがとうございます。

〔代田会長〕

私の方からよろしいでしょうか。中学校の出張講座が開かれています、これはどういった内容で、どういった方が講師をされているのでしょうか。

〔山下係長〕

こちらは、椋山女学園大学の吉田あけみ教授に監修いただきながらまず冊子の作成をいたしました。その冊子を使い、実際中学校の現場でも吉田教授に解説いただきながら、全校生徒体育館に集まっていただいて、1時間程度講座を実施しました。

今年度は、人権週間中の11月27日と12月2日の講義でしたが、4月になりましたら各中学校校長先生にお願いし、吉田教授にも御協力いただきながら、来年度も開講できるよう準備しております。

〔代田会長〕

男女共同参画のこういった講座は、2方向でやるべきだというふうに思っています。マーケティングのプロモーション戦略が2つございまして、一つは「プル戦略」、もう一つは「プッシュ戦略」があります。プルというのは、先に広告を出しておいて、それからお店に来てもらうやり方。逆に、プッシュというのはこちらから訪問して商品を買ってもらうというやり方です。こういう講座がありますよと言って来てもらう、これはもちろん大事なことです、一方で、来てもらえそうにないターゲットに対してはこちらから出向いていくことがやはり大事で、そういった意味では今回このような中学校講座を取り入れていることは、とてもいいことだと思っております。

このように出向いていくような講座を増やしていった方が、来てくれないところにより届くのではないかと思います。これを生かして今後も考えていただければと思います。

〔前田委員〕

講座の周知の仕方というのは、どういうふうになっているのかなと。

私はたまたま見たチラシの中で、いい企画だな、参加したいなと思う気持ちが沸いてくる部分もありました。自分の住んでいる地域を悪く言うつもりはないのですが、

男女共同参画という視点からすれば、私の住んでいる地域は非常に遅れている地域だと実感しています。

先ほどもありましたが、例えばお年寄りが多い、子どもの数が少ない、そんな地域だとなかなか普及できていないなどひしひしと感ずるのです。うちの地域は多分役員も女性になったことはありませんし、そういうことすら芽生えない地域にいるということを会議に出て初めて実感しています。例えば会館に来ないと見られないだけではなくて、こういう講座があるということを、回覧に載せたりするとまた違うのかなと思います。やはり普及するということは、急に変えるということではなくて少しずつ浸透していくということだと思います。それから以降変わっていくきっかけになればいいと思うので、そのきっかけになるために、こういう講座もあるというのを広く、あまり知らないであろうという地域でも知るという機会は大事だなと思います。

こういうチラシとかは会館に行かなきゃ見られないものなのかどうなのか、皆さんあまり知らないものですから、お聞きしたいと思います。

〔山下係長〕

講座を開講するにあたり行っていることは、広報、ホームページ、まなび創造館や市役所、各施設、公共施設にチラシを置くこと、また広く周知したいなというときは市民まつりに出向いてチラシを配ったり、まなび創造館に来館された方、スポーツセンターに来館された方などにチラシをお渡ししたりということは行っております。また、来年度9月から今工事を行っている部分が開館いたしますので、これを機に広くPRできると思っております。

〔前田委員〕

それがきっかけになっていくといいですね。ありがとうございます。

〔廣瀬委員〕

今、前田委員のお話にもありました、周知という部分ですが、私は今ちょうど子育て世代で、小学校からお手紙を子どもが持って帰ってきます。子どもが持ってくる案内チラシは、ターゲットとなるお母さんに確実に届きますし、実は見ていると子育て中のお母さんが関心を示すようなコンテンツがたくさんあると思います。子どもがまず手にとって興味を示し、そこから学校からこんなのもらってきたとお母さんに渡したり、お父さんが見たり、という流れが実は一番王道、かつ確実な周知方法なのかなと思います。それがシニア世代には逆に届けにくいかもしれませんが、おじいちゃん、

おばあちゃんと一緒に住んでみえたり、交流がある御家庭もあると思うと、子どもさん経由でチラシを届けることはできないことではないと思いました。

〔代田会長〕

確実のような気がしますね。

〔廣瀬委員〕

コンテンツによっては、自分のスケジュールをどうにか管理して、都合をつけてでも参加したいという方に届くかもしれません。実際、参加率が100%を超えている講座もたくさんあるとすると、講座の企画自体はかけ離れたものではないので、あとは本当にいいなと思う人に届けられたらと思います。せっかくすてきに作られたチラシでもあるので、子どもさんにも一読していただけたら、またお父さんと一緒に行きたいといったコミュニケーションが当たり前のように起きたら、それこそが男女共同参画のスタートにもなるので、実施するのもいいのかなと思いました。

〔代田会長〕

では、今お伺いした意見は事務局の方でまとめていただき、私が一回確認いたしまして、審議会の意見とさせていただきます。

(3) 令和2年度男女共同参画講座開催事業について

〔代田会長〕

では3つ目の議題、令和2年度男女共同参画講座開催事業について、事務局の方で説明よろしくお願いたします。

〔恒川館長〕

では、議題(3)に移らせていただきます。初めに【資料3】の3枚目、A4の資料になります。こちらは、ハーモニーⅢの中で掲げる4つの基本目標と実現に向けての課題、さらにその施策の方向を示しております。講座内容における目的は、こちらがベースとなります。次に、【資料3】の2枚目のA4横の資料ですが、令和2年度における講座の事業形態であり、男女共同参画講座の体系が一目で分かるようまとめた資料です。例年この体系にのっとり計画しています。以上の内容を踏まえて現在計画しております、来年度の講座一覧が、【資料3】1枚目のA3横長の資料となります。

す。

令和2年度につきましては、男女共同参画講座が全部で19講座あります。その中に、男性支援講座が2講座、就労支援講座を2講座、企業啓発講座が1講座、今年度から新たに開催いたしました、中学校の出張講座も開催する予定をしております。また、男女共同参画普及員研修も例年どおり予定しております。

受講のターゲットは、子どもなど固定のものを初め、30代をターゲットとした講座や、普及員の育成を目的とした講座も多く設定しております。これは、議題(1)にもありました、来年度のまなび創造館の、ハーモニーⅢ重点目標の取組内容も視野に入れた形となっております。また、議題(2)の点検評価シートでもございましたサークルの結成、また活動につなげられるような講座もこの中に含んで計画しております。

今年度と比較して講座全体の回数は少な目になっておりますが、ハーモニーⅢの基本目標の趣旨から外れることなく、内容を重視した計画案とさせていただきます。日程や回数の詳細につきましては現在作成中ですが、ここでいただいた御意見を参考に、よりよい計画としていきたいと思っております。以上です。

[代田会長]

ありがとうございます。

いかがでしょうか。

[廣瀬委員]

毎回この会議で今SDGsに関して発言しておりますが、私の子育て支援団体の中や、おうちでもSDGsという言葉を使わなくてもアクションを起こすことができるように伝えています。その結果お父さん、お母さん方、あとうちのボランティアにも関わっている子育て世代だけでなく、シニアの方たちもSDGsという視点に御関心があることに手応えを感じています。

ジェンダーだったり、住み続けられるまちだったり、男女共同参画とSDGsはリンクしていて、いろんな視点でSDGsに触れると思います。「よくわからないけど、知りたい」という方が多いので、基礎講座などを通して初めて知る人も、「ああ、そうなのか、私も一つずつできることから始めてみよう」となれば、その講座はとても価値があると思います。国内認知度、市内認知度は実際まだまだ低いところだと思うので、内容のところに1つ入れるだけで普及啓発にもなります。小牧ではないお友達とSDGsについて話をしていると、「あれ、小牧って全然そんなこと言っていないよ」という会話があると思うので、「一緒に学びましょう」という意味でもこ

のような公的な講座の中でも啓発できるといいなと。「小牧市が知っているから教えます」というよりは、「小牧市もこれから深めていきたいので、皆さん一緒にワークしていきましょう」というようなコンテンツを講座に入れたりすれば、それこそ男女共同参画だなと思います。

〔伊熊委員〕

それぞれがSDGsに絡み合っているから、講座を行うときに講師の方が「SDGsのこれに該当しますよ」とすべてに言ってもらいたいですね。

〔廣瀬委員〕

チラシにアイコンを載せてもいいですね。そうすると、調べたい人は調べるでしょうし、アイコンを載せることによって、全て絡んでいることが伝わるのかなと思います。私としては、令和2年度はもうどこかに入れてもいい時期ではないかなと思いますので、頑張っていたきたいです。

〔山下係長〕

ありがとうございます。

今5階にSDGsのナンバー5、ジェンダー平等のパネルを作らせていただきました。今後小牧市においても、まなび創造館においても取り組んでいきたいと思っております。

〔松田委員〕

ターゲットが30代、40代とこの資料にたくさん記載されていますが、そうしますと託児がどうしても必要ですね。去年のチラシを拝見していたら、託児の人数が3人とか5人とか割と少なく、講座に参加しにくいという印象を受けました。託児人数の定員を全体に増やせないか、特に30代、40代をターゲットとする講座に関してはできないものかと思いながら拝見していました。以上です。

〔山下係長〕

託児については、定員10の増加や、申し込みに応じた定員増加の検討をいたします。

〔廣瀬委員〕

私たちもいろいろな講座をやる中で、ボランティア活動で子育て支援をやっています。1歳、2歳児のお子さんを連れて講座に来られますが、託児という形をとっておらず、ボランティアさんが少し離れた空間で見守るという形ですので、お母さんは自分に集中することもできますし、お子さんが今どんな遊びをしているのか、どんな表情をしているのか目が届きます。託児だとお母さん方は、今泣いていないかなというような不安もありますが、お子さん自身も同じ空間にお母さんがいらっしゃるので泣かないです。こういう形もできますよという提案でした。以上です。

〔代田会長〕

そのほか、いかがでしょうか。

〔挙手する者なし〕

〔代田会長〕

今回のターゲットは本当に今松田先生がおっしゃったように若いですね、30から、上でも50代ですもんね。

〔恒川館長〕

ターゲットについてですが、先ほどの市民意識調査で30、40代は男女共同参画の言葉の意味を知っている人が少ないということが一つ。それと、現在子育て包括支援センターがございしますが、来年度（仮称）こども未来館ができる予定です。今後子育て世代が多く集まる施設となる中で、我々としてはせつかくの集客力を無駄にしないためという理由で、来年度の講座を組んでおります。

〔代田会長〕

そのほか、いかがでしょうか。

〔山下係長〕

来年度は30代、40代の方も来ていただきやすいような土・日開講や、夜間開講も検討しています。また時事ニュースの講座などはとても人気ですが、受講者の年齢層が高く、また顔ぶれが同じということがあります。同じ方でも来ていただくということはもちろんですが、先ほど前田委員からもありましたとおり、チラシの配り方等工夫して30代、40代の方にも来ていただけるよう広めていきたいと思っております。

〔代田会長〕

ターゲットは絞った方がいいと私は考えております。明確にターゲットを絞って講座を開催しないと集客できない、という傾向は明らかで、「どの年代にも」や「男性も女性も」のような曖昧なターゲット設定で講座をやると、悲惨なことになりますよ。有名人だと集客力がありますから話は別ですけどね。

〔伊熊委員〕

先ほど、地域のコミュニティーをどう活性化するかという話がありましたが、なかなか簡単には活性化できないです。「防災」というキーワードは、そのものを起爆剤として地域のコミュニティーを活性化する大きな力になるのではないかと思います。実際の防災訓練を、ただの形式じゃなくて体験型の防災訓練をやって、皆さんが参加できるような形の訓練をしていけば、地域のコミュニティーも上がってくるし、男女共同参画の意識も変わっていくのではないかと。そこをどうやって盛り上げていくかがこれからのキーワードだと思います。自主防災会についても、1年ごとに変わっていてはだめで、それにたけた人を送り込んででも地域で育てていく、地域で作っていくというような自主防災会の運営マニュアルを作り込んでいくということが大事だと思っています。

〔近藤委員〕

難しいです。私もやりかけましたが、諦めました。

〔伊熊委員〕

先ほども小学校、中学校対象の出張講座のプッシュ、プルのお話ではないですが、やはり学校も含めて全体的に盛り上げないといけないでしょうね。周りは外国人もたくさんみえますし、まちをどうやって明るくするかということが大事だと思います。

〔伊熊委員〕

小・中学校の生徒さんたちが動き出すと、じいちゃん、ばあちゃんも動くという形が理想だとは思いますが、簡単には動かないですよ。

〔廣瀬委員〕

動かないですね。中学生なり小学生なり学校教育の中で、おじいちゃんを連れて逃

げますよというアクションがとれる状態まで教育されていれば、子どもさんが動いているのにおじいちゃんやお父さんたちが動かないわけにはいかないのかなと。子どもたちは役に立ちたいという気持ちがすごくあると思います。いざというときにまず逃げよう、逃げ遅れている人がいたら連れて逃げよう、と子どもさんが先に動いてくれたりすると、自然と男女共同参画が成り立つので、やり方としてはいいのではないかなと思います。

〔近藤委員〕

1回やりましたが、避難するところからもうわからないと言うのです。とにかく一人で勝手に逃げるのではなくて、この地区の一住民として、皆さんで声をかけ合っていきましょう。というところまでは行きましたが、私は仕事へ行っているからどうしたらいいの。という話になってくると、結局まとまらなくなってしまうのです。

〔伊熊委員〕

そういうときでも何らかの連絡をするということは大切だと思いますよ。皆さん全員参加ですよと言っても、参加しない人が多いですね。例えば参加しているよというシールを張るだとかタオルを巻くだとか、そういう形で、全員参加するんだという考え方は大事ではないかなと。まず声をかけて、参加するという意識を高める訓練、そういうところから始めることが大事かなと思う。

〔代田会長〕

要するに、防災講座の中でそういったことを実施するということですね。

〔伊熊委員〕

来年度、まだ案はできていませんが、少し考えていったらどうかなと思っています。

〔廣瀬委員〕

参加したことが見える化、例えば防災訓練に参加したよといって1件1件シールを集めるということはあるかと思います。集めて何がもらえるとかではなく、自分はいくらだけ意識があるという確認ができるようなもの。例えば小牧市独自で1つカードを配付する、今の時代よくあるポイントがたまるよというような仕組みでもいいですね。自分は参加してきた、私えらいなと思う要素って必要なのかなと思います。参加するといいいことがあると人に言えるということ、こういったことが自分の見える化な

のかなとも思いました。

〔近藤委員〕

理想はそれでいいと思いますが、100%を求めるとすると難しいところがあったりします。

〔伊熊委員〕

小牧市の防災ガイドブックを見ると、そんなに大きな災害はないということが分かります。濃尾地震クラスが来たときは、想定で174人亡くなるだろうと書いてありますし、南海トラフ巨大地震が起きたとしても沿岸に比べてこちらは関係ないとほとんどの方は思っておられます。小牧市は災害が少ないことから防災訓練に参加しなくてもいいという人が多いので、やはりこういうことを考え直すところから始めなければいけないと思います。学校教育から始めていくのもいいかもしれません。濃尾地震で亡くなっている方は少数かもしれませんが、家はかなり倒壊しているので、そういったところを教えていく、また今後、このような災害が発生したら大変だということを考えていくことが必要だと思います。

〔伊藤委員〕

LGBTが来年の目標になっていますが、潜在したLGBTの方が、AB型の血液型の方と同じくらいいらっしゃるそうです。私も会社の中でよく相談を受けるのが、トイレをどうするか、だとか制服の問題です。例えば中学生ぐらいだとLGBTの自我がまだ出てこないと思いますが、小牧市の教育委員会は、今後そういったことについて何か対応策をお考えですか。

〔中川教育長〕

LGBTについては、多目的トイレの関係や、制服についても協議を始めているところです。制服につきましては、ただ単にスラックスにすればよいという単純な問題ではないですので、そういった人権に関わる部分も指導しながら進めていきたいと思っています。

〔伊藤委員〕

小さいお子さんの場合でも、同じように対応していただいておりますか。

[中川教育長]

スカートではなくズボンが穿きたいという子がいても、数年前まではやはり校則でとめていた部分が現実問題ありました。しかし今はそういう時代ではないということは十分認知しておりますので、親御さんを含めて本人が納得し充実した学校生活を送れるように対応していこうと考えております。ただ、ケース・バイ・ケースの部分がありますので、潜在的な部分はまだ表に出ていない状況にあると私は認識しています。

[伊藤委員]

わかりました。ありがとうございます。

[武藤委員]

今の話の関係で、私の娘が中学校1年生で、この前男女共同参画とLGBTの内容の道徳の授業を1時間全員受けてきまして、その際もらった今年度版の最新の冊子にはしっかり明記されていました。小牧市さんはどこかの学年で、そういった教育実績はありますか。

[中川教育長]

学年に特化して指導していくことは考えておりません。ですが、社会科であったり、技術家庭科の家庭での家族関係の問題であったりと、それぞれの学年の学習内容に関連する部分が確実にありますので、今はそういった流れの中で指導しつつあるところです。市内一斉に、この時間に、こういう形でやる、といった指示はしておりませんが、各学校で確実にやり始めていると認識しております。

[代田会長]

それでは、定刻ですので事務局の方にお返ししたいと思います。

[恒川館長]

各議題におかれまして、長時間に渡り御審議いただき、ありがとうございます。これを持ちまして、第3回小牧市男女共同参画審議会を終了させていただきます。皆さん、ありがとうございました。